

令和2年7月10日

主催：あきた数学教育学会

あきた数学教育学会 第3回 定例研究会 プログラム

事務局

先般ご案内いたしましたとおり、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、その対応を役員会にて慎重に審議した結果、第3回定例研究会を県南地区・大曲交流センターにて感染予防対策を徹底した上で開催するとともに、ZOOMとメールによる誌上発表も併用したハイブリッド形式で実施することを計画しております。

下記の要領で準備を進めてまいりますが、感染状況が悪化した場合は、誌上発表に切り替えることにいたします。随時、事務局からのメール連絡を確認していただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

1 日時

令和元年8月15日（土） 10:00～13:00

2 会場

大曲交流センター第1研修室

〒014-0063 秋田県大仙市大曲日の出町 2-7-53

電話：0187-63-1105 Fax：0187-63-1296

3 参加費

【正会員】無料 【準会員】無料 【一般】500円

* 飲料は各自でご用意ください。

4 プログラム及び発表概要

9:30～10:00 受付

研究発表①・②の座長：岩見 進（秋田県立本荘高等学校）

10:00～10:30 研究発表① 反省的実践を志向する数学教師を育てる研修プログラムの実証的研究～統括指導教員による初任者研修を中心に～
大友 正純（秋田市立泉中学校）

近年の教員の大量退職、大量採用の影響等により、先輩教員から若手教員への知識・技能の伝達が途切れることが懸念されている。また、教師は実践的指導力を身に付けるために、自身が学び続ける存在であることが求められている。教師の実践的

知識は行為の中にあり、行為の中の省察を通して獲得することができる。本研究は、反省的実践家として学び続ける数学教師の育成を目指す研修プログラムを開発・実践し、実証的に考察したものである。

10:35～11:05 研究発表②

学校数学科における学びの意識の高まりを支える「振り返り」に関する研究

阿部 匠（大仙市立豊成中学校）

本研究の目的は、従来の振り返りに加え、集団との関わりを通じた振り返りの手立てを考案し、その有効性を検証することである。研究仮説を「中学校数学科において、学習活動における振り返りの役割を明確にし、自己との対話や集団との関わりを通して学習過程を振り返ることで、授業の終末で質の高い振り返りを行うことができるようになり、結果、生徒たちの学びの意識は高まるのではないか」として実践した結果、数学の思考に関する質の高い振り返りが促され、数学の学びの意識が高まった姿を確認できた。

11:05～11:15 休憩

研究発表③・④の座長：大友 正純（秋田市立泉中学校）

11:15～11:45 研究発表③

分数除法の意味理解を促す単位分数による導入の検討
平塚 定（能代市立湊城西小学校）

分数のわり算指導において、計算手続きの理解は容易であるのに対し、演算の意味の説明は難易度が高い。

そこで、指導方法の工夫を図るために、まずは教科書教材を比較し、どのような指導が提案されているのかを整理する。

さらに、扱う数値（単位分数、単位分数以外の分数）による展開の違いを明らかにするとともに、単位分数を活用した演算の意味理解につながるための授業の展開について、実践をもとに提案する。

11:50～12:20 研究発表④

授業プランシートを活用した授業の試行Ⅱ～「既習事項の想起と確認」から「課題の意識化」へのアプローチ～

伊藤 弘幸（秋田市立旭川小学校）

本実践の目的は、秋田の教師が工夫・改善を積み重ねてきた「学習シート」の財産を、「授業プランシート」という形で継承することにより、児童の学力および教師の指導力の維持・向上を図ることにある。そのため、学習シートの趣旨を生かした問題解決型の授業プランシートを開発し初任者とのTT授業を継続的に実践している。今年度は、「既習事項の想起と確認」から「課題の意識化」へのアプローチに焦点を当てて実践報告する。